

合言葉は

- ①ぼちぼち
- ②そこそこ
- ③できるしこ

第6夜

10月6日

どうしてる？

「理念とお金のバランス」

「理念とお金のバランス」というテーマの第6夜。NPO 法人の代表をつとめるお二人をお迎えして、かなり突っ込んだ話を伺いました。聞き手は永田賢介（認定 NPO 法人アカツキ理事・職員）です。

活動を通して何を得たいか

女性の視点を活かしたマーケティング会社を経営しながら、がん治療薬の副作用で髪が抜けてしまう女性にウィッグをレンタルする活動に取り組む上田さん。周囲からは「欲がない」とか「お金にならないのに」と言われることもあるそうですが、ご自身にとっては子どもとの時間を大事にすることや、会いたい人に会えること、がん患者さんの笑顔が自分の幸せなので、欲の種類が違うのではと。

一方、大橋さんは病院勤めを辞めた後、介護付き旅行の団体を立ち上げて本業にしています。代表の報酬は多くなく、現状では妻の収入が家計の中心になっているそうですが、「生活面ではリスクヘッジになっているし、やりたいことをやって欲しいと言われている」というコメントがありました。



上田あい子さん (NPO 法人ウィッグリング・ジャパン代表理事)

経営判断に迷った時は！？

経営判断に迷った時はどうすれば？という質問に対して「お金も理念もどちらも理性的な判断だけど、自分はやりたいかやりたくないか、好きか嫌いかわか、本能に従う」(大橋さん)、「色々な人の意見を聞いて、知識や判断基準を増やす、そして心身の面で、いつでも最適な判断ができる自分である」(上田さん) と語っていただきました。

どんな判断をしようとも、その結果を皆で納得して受け入れられるようにしていくことが大事だと感じました。

(白神加奈子：アカツキ職員)



大橋日出男さん (NPO 法人あすも特注旅行班 代表理事)

“やらない”判断のための理念

約3千人のがん患者さんのコミュニティがあるという活動の性質上、上田さんのところには、サプリメントの委託販売といった提携話がくるそうです。しかし、患者さんを守るという理念がある上では「活動を広げるためのお金は得るが、信頼を失うのではないかと、ぐっとがまんすることはある」と。「やらない」が、重要な経営判断という話にもなりました。

参加者の目！

知名度もあり、個人的にも必要性を感じている御二方の活動には以前から興味があり、お話しが聞けてよかったです。お金よりもやりがいや時間の使い方、目の前の人を助けてみたい、守りたい。受益者に対し、必要以上に負担がかからないよう、また収入になるようにと努力されている姿に感激しました。御二方をサポートする周りの方々も、その姿を見て原動力となっているのかな？

NPO も心身も健康でいられる世の中でありませうように

(山田なな子:アカツキサポーター会員)



〔ご寄付のお願い〕 本事業は、完全に自主財源のみで行なっています。QR コードからご寄付いただくと嬉しいです。

